

### 水稻新品種「トヨサチ」について

\*渡辺進二・\*\*小野敏忠・西山 壽・本村弘美・\*\*\*井辺時雄・\*\*\*\*志村英二・  
 \*\*\*\*\*赤間芳洋・滝田 正  
 (九州農業試験場・\*農業生物資源研究所・\*\*元中国農業試験場・\*\*\*熱帯農業研究センター・  
 \*\*\*\*\*農業研究センター・\*\*\*\*\*愛知県農業総合試験場山間技術実験農場)

Shinji WATANABE, Toshitada ONO, Hisashi NISHIYAMA, Hiromi MOTOMURA, Tokio IMBE,  
 Eiji SHIMURA, Yoshihiro AKAMA and Tadashi TAKITA: A New Rice Cultivar "Toyosachi"

水稻新品種「トヨサチ」は、1987年から大分県において奨励品種(認定)に採用され普及に移された。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告し普及の参考に供する。本品種の育成に関し、種々ご高配をいただいた各県農業試験研究機関各位に深く謝意を表する。

#### 1. 来歴及び育成経過

本品種は、1975年九州農業試験場において強稈、良質、多収を目標として「九系90689×センガイ」F<sub>2</sub>を母、「レイホウ」を父として交配を行い、1978年F<sub>3</sub>で個体選抜を行い、以後系統育成法により育成されたものである。1982年F<sub>9</sub>より西海166号の系統名で関係県に配布して地方的適否を検討したもので1987年6月に「水稻農林287号、トヨサチ」と命名・登録された。

#### 2. 特性の概要

1) 形態的特性 ニシホマレに比べ稈長は短く、穂長もやや短く、穂数はかなり多い短稈穂数型である。稈はやや細く、止葉の直立性は中で、粒着密度はやや疎でまれに短芒があり、稈先色は黄白、脱粒性は中である。玄米の粒形・粒大は中で、腹白・心白の発生は極く少なく、外観品質はニシホマレ並みの良質である。搗精歩合はニシホマレ並みで、食味はニシホマレに勝り採用県では銘柄品種のクジュウ並みに良い。

第1表 トヨサチの特性概要

品種名		トヨサチ	ニシホマレ	レイホウ
形質				
早晩	晩生の早	晩生の早	中生の晩	晩生の早
草	穂数・型	穂数・型	偏穂重型	偏穂数型
出穂	期(月,日)	9.5	9.5	9.6
成熟	期(月,日)	10.26	10.23	10.26
稈長	(cm)	73	79	80
穂長	(cm)	19.4	20.1	19.1
穂数	(本/m <sup>2</sup> )	467	352	410
芒の多少	・長短	稀・短	少・短	稀・短
ふ先	色	黄白	黄白	黄白
脱粒	性	中	やや易	中
耐倒伏性		強	強	やや強
耐病性	葉いもち	(Ri-a)	(Pi-a,sh)	(Pi-a,tar)
	穂いもち	やや弱	中	やや弱
	白葉枯病	中	中	やや弱
	縞葉枯病	やや強	中	中
	イネわい化病	罹病性	罹病性	罹病性
イネわい化病	やや弱	やや強	弱	
玄米重	(kg/a)	55.7	58.6	56.2
同上標準比率	(%)	95	100	96
玄米千粒重	(g)	21.7	22.6	22.2
玄米品質		中上(3.6)	中上(3.6)	中中(5.0)
食味		中上	中中	中上

注) 育成地における1975~'81年の標準栽培

2) 生態的特性 出穂期はニシホマレと同程度かやや遅く、成熟期はニシホマレよりやや遅く育成地では晩生の早に属する稈種である。耐倒伏性はニシホマレと同程度の強である。いもち病抵抗性遺伝子型はPi-aをもつと推定され、圃場抵抗性は葉いもちにはニシホマレよりやや弱く、穂いもちにはニシホマレと同程度の中である。白葉枯病抵抗性品種群は黄玉群に属し、レイホウ、ニシホマレより強くウズシオ並みのやや強である。縞葉枯病には罹病性である。収量性はニシホマレよりやや低い。

第2表 トヨサチの食味官能検査(大分県農技センター)

品 種 名	総 合 評 価				
	昭和57	58	59	60	61
トヨサチ	0.09	0.15	0.06	0.08	0.10
ニシホマレ	-0.33*	0.02	-0.73*	-0.19	-0.27*

注) 基準品種クジュウ。\*5%有意差  
 各生産年次とも1月または2月、24名で実施。

#### 3. 奨励品種採用理由

大分県の瀬戸内・豊後水道沿海の平坦地においては、ニシホマレが晩生の主力品種として普及しているが、近年漸減し黄金晴などの早生種の作付けが増加傾向である。これはニシホマレは栽培特性、収量及び検査等級は優れているが食味は不十分なためである。早生種は晩生種に合わせた水管理のため収量・品質の低下やもみ枯細菌病の増加等の問題も生じている。トヨサチは収量性はニシホマレより低いが、品質、耐倒伏性、穂いもち耐病性は同等で、食味はニシホマレより良く銘柄品種クジュウ並みに優れているので、大分県平坦地のニシホマレ、レイホウ及び黄金晴などを対象として普及し、同地域の良食味米安定生産に貢献することが期待される。普及面積は当面3,000haが見込まれる。

#### 4. 栽培上の注意

- 1) 穂数は確保しやすいが過繁茂状態にならぬよう生育前期の窒素追肥は控え、後期追肥に重点をおく。
- 2) 穂いもちには中程度であるので適期防除に努める。準平坦地の常発地への導入は避ける。
- 3) 地力の低いところや水もちの悪いところで生育量が不足して能力が発揮できない。
- 4) 良食味を維持するため、適期刈取り、乾燥調整に留意する。